### 中欧3国を舞台にした銀行資産詐取事件のカラクリ

# -1990年代から続く詐欺事件の影響

### 中欧3国の商業銀行が舞台

1990年代末にオーストリア、チェコ、ハンガリーの商業銀行で起きた銀行資産の詐欺事件は、同一グループによる公的資産略奪の典型事例である。それらの詐欺事件を仕組んだのは旧体制人脈である。共産党政治家あるいは政治家に近い実業家、共産党財務責任者、諜報部員が、体制転換のドサクサに紛れ、国を超えて相互に手を組み、公的資産の略奪を試みた。この3行の被害額だけでも、日本円に換算して2000億円を下らないと推定される。しかも、これほどのあからさまな犯罪行為があったにもかかわらず、厳罰を受けた被告がいないという不思議な事件である。体制転換期の経済犯罪が立件されないという事例でもある。

ハンガリー国立銀行が子会社として、1918 年にウィーンに開設した通称 CW Bank(Central Wechsel- und Kreditbank)は、第二次大戦後、COCOM 規制を逃れるための銀行として、ハンガリーのみならず、東欧各国の共産党のダミー会社が顧客として口座を開設していた。この銀行資産が体制転換直後に、略奪の対象になった。

また、ハンガリーの Postabank は、体制転換後、郵便局の貯蓄口座から商業銀行として独立した銀行で、この貯蓄銀行を構想した Princz Gábor が設立から頭取として、銀行経営に当たった。Princz Gábor は与党野党を問わず、政治家と良好な関係を築き、VIP には特別な条件で銀行資金を融通し、預金には市場利率より高い利子を付けた。いわば政治的政策銀行として Postabank は急成長したが、銀行コンプライアンスの欠如が、銀行資産の流出を招いた。とくに、ウィーンの 1 人商社 BCL Trading への 1200 万ドルの信用状発行は、Princz Gábor 頭取自身が噛んだ詐欺事件であるが、それには旧ハンガリー共産党(社会主義労働者党)に関係する人物が絡んでいる。

さらに、1990年に国立銀行から分離独立して設立されたチェコの最大の商業銀行 Komerční banka は、1992年のクーポン民営化によって、国家資産基金他の公的機関が保有する銀行となった。1998年 Komerční banka は BCL Trading が持ち込んだ Postbanak 発行の信用状にもとづいて 1200万ドルを融資しただけでなく、この 1 人商社に 2 億ドルのクレジットラインを設定していた。信用状にもとづく資金融通をおこなった後、ハンガリーでこの取引が詐欺事件として大きな報道されることになった。 Komerční banka は BCL Trading 社の口座を凍結しようとしたところ、すでにクレジットライン一杯まで、資金が引き出されていた。

CW Bank 資産の略奪、Postabank 詐欺事件、Komerční banka 詐欺事件は、同一の犯罪グループによる銀行資産略奪である。しかも、そのすべてにおいて、銀行の一部経営陣が犯罪グループと釣(つ)るんでいた。

すべての体制転換諸国において、公的に所有される商業銀行の資産が略奪の対象になったが、上に挙げた3国に存在する商業銀行は、旧体制人脈の餌食になった。その影響は現在もなお、政治の舞台に暗い影を落としている。

### CW Bank 資産の略奪

体制転換前の CW Bank の主要な顧客は、10 に満たないロシア・東欧の社会主義政府(共産党)のダミー会社だったと言われている。1989 年の体制転換の勃発によって、顧客だった会社と銀行との関係が大きく変化した。政治経済の混乱のなかで、取引に関係していた会社幹部や諜報部員たちが、体制崩壊に乗じて、CW Bank からの融資金を詐取する行動に転じた。CW Bank は 1990-1996 年の間に、不良化することが目に見えている顧客の事業に融資を繰り返し、1996 年には 700 億 Ft(当時の為替レートでおよそ 5 億ドル)の累積赤字を抱えることになった。

不良債権の詳細は公にされていないが、1996年に報じられた融資スキャンダルが不良債権の状況を象徴している。この年の春、CW Bank はブルガリアの学生で起業家の Biszer Dimitrov がフランスで行っていた労働創出事業に 430万フランの出資を決めた。この学生はこの事業にフランス政府からも補助金を取得していたが、それを国外に持ち出したとして刑事事件になった。CW Bank が融資した資本金も Dimitrov によって持ち去られた。Dimitrov はブルガリアの国営企業幹部と親しく、COCOM リストに抵触する電子製品の売買に携わっていた。その関係で、CW Bank 幹部とも知り合ったと思われる。

なぜブルガリアの学生がこのような事業に入り込むことができたのか。それは父親である Sztojko Dimitrov が、ブルガリア諜報機関の大佐だったからとされている。COCOM 規制を掻い潜ることは諜報部員の仕事であり、Dimitrov が父親からその仕事を託されたと考えべきだろう。Dimitrov 一家はハンガリーのある人物と旧知の仲であった。ある人物とは Apró Piroska である。カーダールの片腕としてハンガリー社会主義労働者党に創設から解体まで政治局員として務めた Apró Antal の長女である。



Apró Antal

Apró Piroska

Dobrev Klára

Dobrev Petra (ブルガリア人)

Apró Piroska は 2 度にわたって、ブルガリアのソフィアにあるハンガリー通商代表部に勤め、この駐在時代に知り合ったブルガリア人(Petra Dobrev)と結婚した(現在、ハンガリーの野党統一首相候補に立候補している Dobrev Klára はこの夫婦の一人娘である)。Petra Dobrev は国営商社マンだったが、ブルガリアの諜報部員でもあったと言われている。 さらに、Apró Piroska は体制転換前後には、ハンガリーの電子機器製造国営企業 Videoton の貿易担当役員を務めており、Videoton はウィーンの CW Bank を利用して、西側諸国との貿易を行っていた。Dimitrov を CW Bank に紹介したのは Apró Piroska と考えて間違いない。

CW Bank の顧客はブルガリア、マケドニア、ウクライナ、ソ連の共和国のダミー企業だったが、とくにブルガリアとの関係が取り沙汰されるのは、Apró Piroska や Videoton との関係が強かったと考えられるからである。

1998年に政権を取った第一次オルバン政権は CW Bank の不祥事の責任と銀行清算をめぐって、シュラーニィ国立銀行総裁と激しいやりとりを繰り返した。ただ、シュラーニィが総裁に就任した 1996年にはすでにほとんどの銀行資産が略奪されており、シュラーニィはその後始末をすることしかできなかった。監督責任と言う意味ではそれ以前の国立銀行総裁に責任はあるが、体制転換の混乱のなかでウィーン支店の異常な融資を監督することまで思いつかなかったのである。旧体制下で CW Bank を利用していた人物や企業が、体制転換のカオスの中で、CW Bank の経営陣と共謀して銀行資産を略奪したのである。

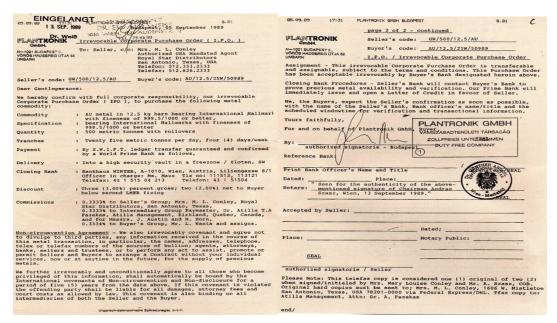
CW Bank の巨額赤字はハンガリーの国庫で処理され、銀行は清算された。日本円にして 1000 億円近い損失がハンガリー国民の税金で処理されたのである。



社会党幹部(左が Zuchman、右が Horn)と同席する Princz

#### Postabank 詐欺事件の概要

Princz Gábor が主導して設立した Potabank はその乱脈融資から、1990 年代に数度にわたって取り付け騒ぎを起こした。Princz は国家介入を避けるために、民間資本による増資を画策し、資本強化を図ろうとしていた。このスキームに旧体制の実力者と旧諜報関係者が



Szász András 署名の 500t (当時の価格で1兆円弱) の金塊の売買契約書

体制転換後、Apró Piroska とともに、国家資産や共産党資産を元手に新しい事業を展開していたのが、旧社会主義労働者党財務責任者の Máté László である。彼は Apró Piroska とともに、Kossuth Trading House を設立しただけでなく、旧ソ連にたいする債権処理ビジネスに入り込むために Nador 95 Rt.を設立し、その代表に旧体制の二重スパイ(ハンガリーおよび KGB)であった Szász András を据えた。当時、Máté はホルン首相を支える社会党副委員長に就任していたために、自らが表に出ることを避けたのである。

Szász András は体制転換直後からウィーンを舞台に各種の資産略奪に加わっている。1989年にはソ連邦中央銀行から横流しされた500tにも上る金塊のロンダリングに一役買っており、ペーパー上のロンダリング過程に名を連ねている。

Szász András は、Princz からの依頼で、増資スキームを練り上げたと思われる。彼はウィーンで、ロシア系イスラエル人でオーストリア国籍の Barak Alon と共同で、Postabank の増資のスキームに加わった。Barak Alon の父親である Shlomo Alon はロシアでは良く知られた実業家だが、イスラエル移住の後に、イスラエル諜報機関の諜報部員になったと言われている(KGB との二重スパイ)。旧体制時代の諜報部員の仲間である Szász András と Barak Alon が共謀するのに何も問題はなかった。彼らは「無から有を創り出す」詐欺スキームを構想したのである。

Princz、Szász、Alon が画策した Postabank の増資スキームは次の通りである。

(1) 増資資金は Postabank から引き出す。つまり、Postabank から増資資金相当分を詐取

し、それを増資資金に充てる。

- (2) まず Barak Alon がウィーンに保有する BCL Trading 社から、Nador 95 Rt.が 1200 万ドルの鉄鋼材を購入する契約を結ぶ。
- (3) Postbank は Nador 95 Rt.が支払うべき 1200 万ドルの信用状を発行し、BLC Trading に渡す。この時、鉄鋼材は BCL Trading がチェコの倉庫に保有しているという倉庫証券が担保にされた(実際には存在していない)。
- (4) BCL Trading はこの信用状をチェコの Komerční bankaa に引き取ってもらい、現金化し、それで得た資金を Postabank の増資資金として Postabank に振り込む。

まさに、「無から有を創り出す」錬金術である。Postbank から詐取した資金を Postabank の増資に振り込み、Postabank の株主になるというスキームである。しかし、このスキーム は挫折した。Komerční banka は 1200 万ドルを BCL Trading に振り込んだのだが、あまり の巨額の資金のために、銀行内部での審査に手間取り、Postabank が設定した増資期限に間 に合わなかった。

このスキームが画策されたのは 1998 年春。その後、ハンガリーでは第一次オルバン内閣が成立して、社会党に関連した腐敗事実の究明が始まった。この年の 8 月末、特殊部隊が小銃を抱えて Postabank 本社を取り囲み、頭取室に入った。

この後、チェコでは Komerční banka の経営陣が告訴され、懲役刑を求刑されるが、その詳細は次節で詳述する。Komerční banka と並んでチェコの有力銀行だった IPB Bank(通称、投資銀行)は野村證券が資本を投下して株主になっていたが、2000 年になって経営陣の不正融資の疑いで、やはり特殊部隊が重装備で本社に入り、頭取の頭に銃を突きつけた事件があった。



裁判所向かう Princz (2006 年)

Postabank も IPB Bank も、この後、一時的に国有化され、その後、外国銀行に売却された。ハンガリー政府は Postabank の当時の経営陣と監査を担当しているデロイトを告訴し、1500 億 Ft の賠償訴訟を起こした。

この間、Princz はウィーンに逃れていたが、ハンガリーに戻ったところで逮捕された。 2009 年に裁判は結審し、Princz にたいする資産の不正流用疑惑は解明されず、わずかな罰金刑(360 万 Ft)でほとんど無罪放免になった。Princz が Postbank に集った政治家を暴露すれば、ハンガリー政界は大混乱に陥るからである。Princz はハンガリーの経済大学を卒業しているが、モスクワ生まれで高校時代までモスクワで過ごしている。 KGB との関係は不明だが、Szász András や Alon 父子と関係を結んだ背景には、ともにロシアの諜報機関の影がチラつく。

Princz は 2018 年 11 月に 62 歳の若さで、ウィーンで死去した。すべての悪巧みを墓場に持ち込み、他言することはなかった。

## Komerční banka の失態

Barak Alon は Postabank 発行の信用状で Komerční banka から 1200 万ドルを引き出しただけではない。彼の BCL Trading は Komerční banka に異常なほど高額なクレジットラインを保有していた。1998 年の Postbank 事件が報道されて、Komerční banka の役員が慌てた。なぜなら、このウィーンの 1 人商社に、2 億ドルものクレジットラインを設定していたからである。役員が動き出した時にはもはや時遅く、上限一杯の融資が実行されていた。

後に BCL Trading の調査を依頼されたウィーンのデロイトが発表したところによれば、「1990 年代の BCL Trading には 170 億ドル以上のお金が流れ込んだ」と報告している。ロシア、イスラエル、中欧諸国を股にかけ、それぞれの旧体制時代の諜報機関のネットワークを駆使して、詐欺行為を続けた結果がこれである。体制転換の混乱はこのような巨額の富の取得を可能にしたのである。



1998 年に財務大臣に就任した Ivo Svoboda (左) と首相に就任した Milos Zeman (右)

それにしても、不可解なのは「どうしてプラハの Komerční banka がウィーンの 1 人商社に、巨額の融資枠を設定することになったのか」である。誰が Alon 父子をチェコに招いたのだろうか。その鍵は、「チェコが対旧ソ連に保有していた債権処理」である。この対ソ連債権処理は体制転換後、ほとんどの中東欧諸国で共通の課題になった。各国政府はこの債権処理を通して、うまいビジネスが生まれ、かつロシアとの貿易関係のきっかけとなると考え、政権政党に近い企業にこの債権処理の仕事を与えたのである。ハンガリーでは Szász András とその背後にいる Máté László が率いる Nador 95 Rt.が窓口になったが、チェコでは Alon 父子が窓口になった。

チェコの対ソ債権交渉は 1993 年から断続的に行われてきたが、なかなか最終結論には達しなかった。ソ連の債務を引き継いだロシアは現金での返済ではなく、ロシアが抱える余剰生産物あるいは軍事製品で処理したいと考えていた。この品目決定で両者が歩み寄るのは難しかった。なぜなら、ロシアが抱える余剰品はほとんど市場で販売できるものはなく、軍需品も同様に市場では販売できないほど陳腐なものだったからである。だから、中東欧諸国のどの国とも交渉は長引いた。

現チェコ共和国大統領ゼマン率いる社会民主党は 1998 年の総選挙で勝利し、クラウスに 代わってゼマンが首相に就任した。この時に財務大臣に就任したのが、Ivo Svoboda である。 彼は対ロシアとの債権交渉に、オーストリア在住の Alon 父子を仲介者にすることをゼマン に提言し、それが実現した。既述したように、Shloma Alon はロシアでも知られた人物で、 ロシアの政治家と緊密な関係にあった。そのことを知る Svoboda がゼマンに Alon 父子の仲 介を提言したのである。



別の案件で逮捕された Ivo Svoboda(1999 年)

しかし、この時の対ロ交渉もうまく行かず、最終決着は2001年までずれ込んだ。Alon 父子にとってそれはどうでも良いことでもあった。チェコ政府との関係を利用して、Komerční banka から巨額の資金を引き出すことが最大の狙いであった。事実、Alon 父子はすでに1996年から Komerční banka に口座を開設しており、1998年に至るまでおよそ90億コルナ(当時の為替レートでおよそ2.6億ドル)を銀行から引き出した。とくに、対ロ交渉の仲介者になった1998年に、Komerční banka のクレジットラインは2億ドルまで引き上げられてい

た。明らかに、この Alon 父子と Komercni 銀行との特別な関係を仲介したのが、Ivo Svobodaなのである。

それでは、いったい Ivo Svoboda とはいかなる経歴をもつ人物なのだろうか。どうやって、Alon 父子と密接な関係を取り結ぶようになったのだろうか。**その鍵は再びハンガリーにあった。** 

Ivo Svoboda が体制転換を通して、どうして社会民主党幹部に成り上がったかは良く分からないが、その転機はチェコの電気機器企業からハンガリーの Videoton 社の販売部署に転勤した時に始まった。Videoton のこの部署は Apró Piroska が取り仕切っており、その後、Piroska は工業副大臣に任命されたが、Ivo Svoboda の転勤は Apró Piroska が旧体制時代の貿易網と諜報員網によって実現したと考えられる。もちろん、窮地にあった Videoton 社の製品をチェコで販売したり、チェコから新たな技術を導入したりする役割があったと思われるが、Ivo Svoboda がハンガリーに赴任したのは、Piroska との縁であったことは間違いないだろう。それ以前の Svoboda の経歴は分からないが、対ソ連市場への販売や諜報網を通して、ロシアやハンガリーの諜報部員と知り合ったことが、彼の運命を決めたと考えられる。 Piroska からハンガリーの Szász András、オーストリアの Alon 父子を紹介してもらったのだろう。



稀代の詐欺師で二重スパイの Szasz Andras は 2019 年にハンガリー電力の資産を詐取した 事件で、当時の社長 Kocsis とともに懲役 3 年の実験判決を受けた。その後、収監を免れ ていた時期に、行方をくらました。現在、逮捕状が出ている。

しかし、その彼がどうやってチェコに戻り、社会民主党の幹部になったのだろうか。それが次の問題である。

そのテーマに移る前に、Komerční banka のその後を記しておく必要がある。 1999 年、チェコ検察は Svoboda が役員を勤めていた Liberta 社で背任行為があったと逮 捕し、Svoboda は財務大臣を解任された。Svoboda は 2005 年に懲役 5 年の判決が下り、 2008 年に出所した。2017 年に死去した際には、チェコのメディアは、「政治マフィアの死去」と伝えた。

他方、Komerční banka の経営陣は BCL Trading の不祥事が発覚して、全員辞任することになったが、2000 年になってチェコ検察は頭取を含む経営陣 8 名を起訴した。しかし、2004年になって BCL Trading との共謀の証拠がないと無罪判決を受けた。上級検察は無罪判決の度に、再び起訴したが、2007年にも無罪判決がでた。当時の Komerční banka 頭取 Jan Kollert は 2008年に死去した。ハンガリーの Postabank と同様の結末である。Komerční banka は現在もなお、BCL Trading にたいする債権 15億コルナを計上しており、1990年代末の銀行不祥事が、幽霊のように生き続けている。

他方、Komerční banka の資産を詐取した Barak Alon はどうか。2003 年 1 月に Barak がハンガリーを訪問した際に、1200 万ドルの Postabank 資産詐取容疑でハンガリー警察に逮捕され、8 ヶ月間拘置された。その後、釈放された Alon は、今度はチェコ政府からの要請を受けたオーストリア警察によって逮捕・起訴されたが、いったん釈放された後に行方をくらました。形だけの訴訟がオーストリアで今も続いている。

## ロシア資金と旧諜報部員が暗躍する中欧世界

今、中東欧世界でロシアのプーチンや中国の習近平ともっとも親しい政治家は、チェコ大統領のゼマンとハンガリーの首相オルバンである。ともに旧体制時代は反体制派を自負していた政治家だが、権力を得てからは親ロシア、新中国に転身した。どうしてか。その最大の要因の一つが、対ロシア、対中国のビジネスから得られる法外な利益であり、各種の資金的援助である。

チェコの社会民主党は体制転換後、長らく野党に甘んじていた。野党にとって最大の問題は党組織を支える資金である。政権党であれば、種々の公金を流用して、党の財政基盤を整えることができる。しかし、野党にはその手立てがない。そこにロシアや中国の出番がある。ロシアや中国との貿易関係を通して、合法非合法の資金を中東欧諸国に流すことができる。ゼマンは形振り構わず、ロシア企業との関係強化を通して、ロシア資金を手にする道を選んだ。それが最終的に、Ivo Svoboda を党に抱え込み、彼に高いポストを与えることになった。

現在、中東欧諸国の中でチェコに駐在するロシア外交官(諜報部員)の数がもっとも多い。 地方の領事館を含めると、現地スタッフを含めて、150名を超えるとされる。さらに、ゼマンが大統領に就任してから、ロシア人のチェコへの移住が進められ、2017年には1年で4万に近いロシア人がチェコの市民権を得た。プーチンにとって、チェコは欧州突破の最前線になったのである。もちろん、この報償はゼマン大統領の再選資金の提供であり、権力基盤の強化である。



同じことがハンガリーで起きている。ハンガリーの場合は中国との関係を通して、より大きな資金が得られるスキームが働いている。中国から輸入された人工呼吸器とワクチンにはそれぞれ 600 億 Ft の予算が支出されたが、その半分は政権政党に還元されたと考えられる。政権政党 Fidesz はこの痕跡を消すために、人工呼吸器輸入のために設立した会社を清算して、野党が政権を取った時に税務調査できないようにしている。

このように、対ロシア、対中国ビジネスは巨額の裏金を作ることができる有り難い存在なのである。チェコとハンガリーの違いは、チェコが旧体制時代の諜報部員網を使ったのにたいし、そのような諜報網を持たないハンガリーの政権政党は資金源獲得のために、新たな市場開拓を行う必要に迫られた。その一つがロシアと中国相手に発案した Golden Visa (定住権付き国債発行)であり、中国との医療機器ビジネスであり、復旦大学キャンパスの開校なのである。



Czech Senate Speaker Milos Vystrcil waves upon his arrival at Taiwan's Taoyuan International Airport. Photo: AFP

しかし、チェコではゼマンの外交政策に反対する勢力が強く、上院議長は台湾を訪問して、 ゼマン大統領を牽制している。他方、ゼマン大統領は健康状態が悪化し、車椅子なしでは移 動できない状態になっている。チェコの外交政策転換が始まる日は近い。

他方、ハンガリーはどうか。政権政党 Fidesz は国会議席の3分の2を占めているが、総選挙の得票率は野党の得票率総計とほぼ同じである。野党が統一候補を出せば、政権交代が起きる可能性がある。だから、Fidesz は連日、野党の首相候補を批判する番組を公共放送で

流している。それだけ危機意識が高い。

### ハンガリーの野党統一候補予備選挙

さて、ハンガリーは来年に総選挙を控え、政権政党と野党が激しい鍔迫り合いを演じている。オルバン首相は、11月に年金生活者全員に、一律8万Ftの年金プレミアムを支払うことを約束し、さらに来年1月には1ヶ月分の年金を「年金ボーナス」として支払うことを明言した。まさに、公金で年金生活者の票を得ようというわけである。私が指摘する give but obey 戦略である。

政権政党と野党の得票は拮抗しているが、野党がばらばらでいる限り、政権交代は実現しない。そこで来年の総選挙では、すべての選挙区で野党統一候補を立候補させるために、各選挙区で野党が予備選挙を行い、ほとんどの選挙区で野党統一候補が決定した。予備選挙で共同候補として確定した数は以下の通りである。

DK (ジュルチャーニィ党首) 33 選挙区

Jobbik 28 選挙区
MSZP(社会党) 18 選挙区
Momentum 15 選挙区
Párbeszéd 7 選挙区
LMP 5 選挙区

となっている。

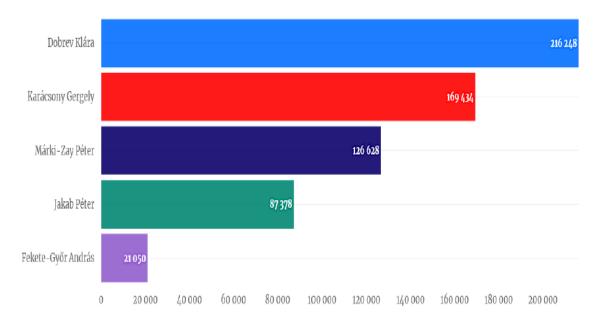


Dobrev Klára

Karácsony Gergely

同時に行われた共同首班予備選挙の結果は以下の通りである。これは第1回選挙で、第2回目の選挙には上位3名が立候補できる。

Dobrev Klára (DK、ジュルチャーニィ夫人)34.76% (216,248 票)Karácsony Gergely (現ブダペスト市長)27.31% (169,434 票)Márki-Zay Péter (現ホードメズーヴァーシャールへイ市長)20.43% (126,628 票)Jakob Péter (Jobbik)14.1% (87,378 票)Fekete-Győr András (Momentum 党首)3.4%(21,050 票)



ブダペストでは Karácsony が優位に立っているが、地方では Dobrev が 1 位の得票を得ているところが多く、旧社会党の支持者が DK の Dobrev を支持していると思われる。しかし、全国的にジュルチャーニィー家にたいする嫌悪感が強く、Dobrev が野党統一首班候補になった場合、野党は政権を取れないと予想されている。DK が各地で力を発揮しているのは、ジュルチャーニィの財力による運動員の活動力である。

Publicus Intézet の世論調査(10月2-4日、全国1004名から回答)によれば、次のような結果が出ている。

- (1) Karácsony が統一首班候補になった場合、38%が野党統一候補に投票し、34%が Fidesz-KDNP に投票する。
- (2) Dobrev が統一首班候補になった場合、35%が野党統一候補に投票し、37%が Fidesz-KDNP に投票する。
- (3) Márki-Zay Péter が統一首班候補になった場合、33%が野党統一候補に投票し、38% が Fidesz-KDNP に投票する。

この世論調査では、45%が野党政権を期待し、42%が Fidesz-KDNP の政権継続を期待している。

投票を決めていない層では、すべての野党候補の支持が、オルバン首相への支持をはるかに上回っており、Karácsonyが統一首班候補なった場合の野党支持率が一番高く出ている。

統一首班候補予備選挙の興味は、Dobrev Klára が統一党首候補となるのを阻止するために、予備選で 2 位と 3 位の二人が協定を結んで、第 2 回予備選挙で共同候補の座を獲得できるかどうかである。当初、Karácsony は Márki-Zay を政権獲得の際は副首相として処遇す

るという案で、Márki-Zay と共同戦線を張ることを主張したが、他の野党が Márki-Zay 支持を打ち出したために、反 Dobrev 票が分裂する状況になった。



Karácsony ブダペスト市長(左)と Márki-Zay ホードメズーヴァーシャールへイ市長(右)

10月8日、Karácsony は首班予備選挙から下りて、Márki-Zay を支援することを決めた。これで野党統一首班候補予備選挙の第2回目投票は、Dobrev と Márki-Zay との一騎打ちとなった。この背景には政治家個人としての魅力が Márki-Zay に分があり、Fidesz の牙城であったホードメズーヴァーシャールへイ市の市長の座を Fidesz から奪回したカリスマ的な強さが評価されている。それにたいして、Karácsony は政治家として、やや優しすぎるという評価があり、本人も Márki-Zay 首相と Karácsony ブダペスト市長のタッグを組む方が、Fidesz 打倒に有効だと判断したためだと考えられる。

現在のところ、全国的に Márki-Zay の名前は浸透していないが、来年の総選挙までまだ時間があり、ポスト・オルバン、ポスト・ジュルチャーニィ時代を訴える新鮮さが強みとなる。他方、これまでカラチョニィとジュルチャーニィへの批判を展開してきた Fidesz は戦略を変えることを余儀なくされよう。Fidesz の腐敗を暴露して市長に当選した Márki-Zayを、Fidesz が批判するのは難しい。1975 年生まれのカラチョニィと 1973 年生まれのマルキーザイのコンビは、腐敗しきったハンガリーの政治に新しい道を開く可能性を感じる。

#### なぜ Dobrev Klára では勝てないのか

Dobrev Klára 自身に瑕疵があるわけではない。経済大学と ELTE を卒業し、4 カ国語を話す才女である。しかし、祖父がカーダール側近の政治局員 Apró Antal、母の Apró Piroska は旧体制の要人で、新体制でも旧情報員網を操っていた人物である。夫のジュルチャーニィは体制転換初期の民営化でアルミ加工会社を安価に仕入れ、それが現在の政治活動の基盤になっている。社会党を崩壊させ、一度は失脚した政治家である。Dobrev をめぐる家族環境は最悪である。叩けば叩くほど、埃が出る。Fidesz にとって、Dobrev は与しやすい相手である。

しかも、現在の住居は、旧社会主義労働者党が政治局員 Apró Antal に提供していた館で、旧カーダール邸に隣接している邸宅である。この邸宅は体制転換によって、いったんブダペスト 2 区自治体の所有物になったが、1996 年にクラーラの名義になった日く付きの物件で、この時の購入額は 900 万 Ft 弱(およそ 5 万ドル)だった。10%の現金支払いの残額は 25年ローン支払いとなった。その時のローンを提供したのは、母親が経営委員会委員長を務める Magyar Hitelbank である。



現在の Dobrev-Gyurcsány 邸(旧 Apró Antal 邸)

旧 Apró 邸はブダペスト 2 区薔薇が丘の高級住宅街に位置する 1422m²の敷地に家屋面積 159m²の館である。今これを購入使用とすれば、3 億円を下らない。その物件を端金で手に入れたのである。もちろん、その後、ジュルチャーニィ夫妻は館をリノヴェイトし、立派な 佇まいを見せている。この物件が、その後権力を握った Fidesz 政治家がこぞって建てた邸 宅のモデルになったことは否定できない。

こういうキャリアをもった Dobrev Klára はポスト・オルバン時代に相応しい人物だろうか。明らかに否である。反ジュルチャーニィ感情が強いハンガリーで、彼女がオルバンに勝てる確率は低い。ジュルチャーニィとオルバンのどちらかを選ぶなら、オルバンと答える人が多いだろう。旧社会党支持者は別として、それほどまでにジュルチャーニィは人気がない。ハンガリーの政治はポスト・オルバン、ポスト・ジュルチャーニィになって、初めて新しい時代に入ることができる。ハンガリーの政治は公金にどっぷり手を染める時代を脱却しなければならない。ジュルチャーニィー家にそれができるとは思わない。ハンガリー国民はいまだ腐敗に手を染めていない新しい世代の Karácsony や Márki-Zay にハンガリーの未来を託すべきだろう。